地中性のクモの好む環境の違い

～ワスレナグモは乾燥した生息地にも適応した～

相知　紀史(平戸市立平戸中学校)

ワスレナグモの生息地は、(八木沼1986、吉倉1987)では、「比較的乾燥した場所」と報告されているのに対し、(加村1991)では、「湿原」であると報告されている。これらは(新海2006)によってまとめられている。一方、キシノウエトタテグモには、生息環境に関する報告は少ない。

　そこで、筆者は長崎県平戸市産のワスレナグモとキシノウエトタテグモの2種について、2015年3月から7月の間「シンワデジタル土壌酸度計A」を使用し、ｐＨ、地温、水分量を毎日、18時から19時の間に測定した。測定場所はワスレナグモ生息地(民家の庭)、キシノウエトタテグモ生息地(石垣の下)、少し離れた石の下、畑、30ｃｍ離れたところの5地点である。その結果、キシノウエトタテグモの生息する土壌は水はけが悪く、雨水がたまりやすいため、59日中57日は大変水分量が高く、ｐＨは低かった。それに対しワスレナグモは、73日中53日は水分量が高く、キシノウエトタテグモの生息環境より地温の変化が大きいことが分かった。雨水の蒸発が早いためか、ｐＨは高くなった。以上により、原始的なキシノウエトタテグモに比べワスレナグモはより乾燥した環境にも適応するように進化した可能性が示唆された。